

□は健康のもと Vol.123

骨粗鬆症は顎の骨にも影響 ～歯のX線写真で早期発見～

骨粗鬆症は骨が「すかすか」になって背中が曲がりやすくなったり骨折しやすくなる、もしくは骨折を起こした状態をいいます。骨粗鬆症については多くのニュース番組や健康番組で頻繁に取り上げられており、各地の健康イベントでも骨密度測定コーナーが設けられ、皆様の中にも利用された方が多いかと思えます。骨粗鬆症が進行して背中が曲がったり骨折により車いすや寝たきり生活になることは、「生活の質」を損なう要因となります。また骨粗鬆症は自覚症状なしに進行するため、ひどくなってから病院を受診しても可能な処置が限られてしまうこともあります。日ごろから食事や運動を心がけることで、骨粗鬆症の進行を抑えたり予防につながるといえます。

一方最近の研究成果により顎の骨にも骨粗鬆症による骨の変化が起きうることが明らかになりました。またパノラマという歯のエックス線写真で顎の骨がどのくらい骨粗鬆症の影響を受けている可能性があるかを推定する方法が確立されてきました。

ご心配な方は、一度かかりつけの歯科医師にご相談されることをお勧めいたします。



奥羽大学歯学部附属病院

放射線科 准教授 原田 卓哉

